

# 魅力発信女子部から学ぶ

## 大学生 新宮で地域活性化考える

大阪市立大学の学生がこのほど、2泊3日で新宮市を訪れた。2日には神倉山に登った後、仲之町のサンタウンホールで「新宮市魅力発信女子部」の活動について、市役所の担当職員やメンバーの話聞き、意見交換した。

コミュニケーション再生副専攻のメンバー約10人は、2年生または3年生で、所属学部は商、経済、法、文、工学部と多岐にわたる。地域活性化のための課題や取り組みなどを学ぶのが狙い。

魅力発信女子部の活動については、新宮市商工観光課の勢古口千賀子企画員らが経緯を交えて説明。地方創生事業を活用していることなど取り組みの枠組みを紹介したほか、魅力発信と女子のつながりづくりから派生し、事業主同士のつながりを生むきっかけにもなっていると語った。また、

女子部のメンバーや活動をつなぎ役に、新宮を盛り上げる事業ができればいいと展望を示した。

学生からは「女子部の中で情報交換の手法は」「企画はどのように形になるのか」などの質問があった。女子部のメ

ンバーは「フェイスブックがある。また、イベントのグループごとにつながっている。年に4回ぐ

らい全体で集まる機会がある」「企画会議のような活動がある。普段のやりとりはネットがある」などと説明。明治大学で

実施している熊野学フォーラムに参加し、アピールしたことも紹介した。

意見交換の後、仲之町商店街振興組合の西孝さんの案内でアーケード内を視察。ファッションの街であり、服飾店が多いことやかつてのにぎわいなどについて説明を受け



魅力発信女子部の取り組みを学ぶ

水内俊雄・都市研究ブラザ教授によると、都市部だけでなく地方の視点も取り入れるために大学周辺以外で活動している。新宮市は都市部と山間部があり、さまざまなことが学習できる場という。今回の視察では熊野川町や高田地区も訪れ、かあちゃんのお店やゲストハウス、NPO法人高田などで話を聞いたという。

白倉里菜さん(経済学部2年)は「遠かったけど、また来たい場所。地域の人も親切」と新宮の



仲之町を視察する大学生

印象を語り、女子部の活動については「地元のこととがすごく好きという気持ちを感じられた。(フェイスブックだけでなく)くほかのツールも活用し、いっぱい発信したら、活動を知ってくれる人も増えるのでは」と提言していた。(中村正弘)